

自動運転バス(レベル4)の実証運行について

2024.8.26
定例記者会見資料
(情報提供)

背景

- ▶ 公共交通機関の乗務員不足の深刻化
- ▶ 多摩川住宅の建替えによる地域住民増(2025年度以降)
→ 移動手段の増強・確保が重要課題

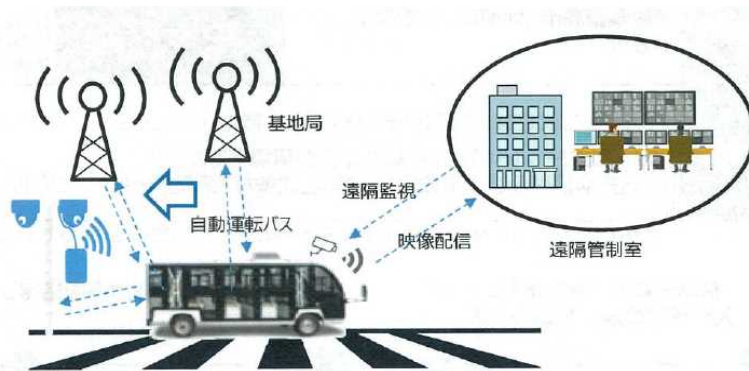
実証の概要

- ▶ 総務省「地域デジタル基盤活用推進事業(自動運転レベル4検証タイプ)」実証地域選定 ※都内は狛江市のみ
→ 公道でレベル4に向けた自動運転バスの実証運行 ※都内初
- 【実証団体(コンソーシアム)】
東日本電信電話(株)、(株)ティアフォー、(株)マップフォー、
(一財)計量計画研究所、(株)unerry、狛江市
- ▶ 交差点、ロータリーに設置した定位置センサー・カメラ情報をローカル5Gで遠隔監視者等に伝送
- ▶ 多視点インフラによる自動運転の走行支援を検証(10月以降)

<実証イメージ>

想定される検証項目の例

- ・交差点における通信
- ・基地局間のハンドオーバー
- ・路車間通信の信頼性
- ・必要な通信帯域幅 など



遠隔型自動運転車両
株式会社ティアフォー製 中型バス車両
「Minibus」乗車定員23名(立ち乗り含)



和泉多摩川駅から多摩川住宅を周回して駅へ戻るルート4.1km